

ノートルダム清心女子大学 第2期（2025～2030年度）中期計画

（2025年4月1日）

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 (目指す状態)	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
(1) 建学の精神、 教育理念の浸透 の促進	1	・ 本学のアイデンティティの再確認と維持・強化 による社会的価値の向上 ※関連：大項目(2)～(8)の全計画(取組)	・ 教育・研究・社会連携・大学運営に係る各種活動の意味・成果の点検 (関連：連番28) ※意味の点検におけるアーカイブ資料の活用 ・ 卒業関連行事等、理念浸透促進の機会創出（関連：連番3） ・ 自己点検評価アンケート(教職員)や学生アンケートで浸透度確認（関 連：連番28） ・ 効果的な浸透を図るための学園校間での連携（関連：連番16・26・ 27）	・ 本学の理念が十分に理解・ 浸透しており教職員や学生の 活動・行動に表れている状態 （各種活動の状況・成果、各 種アンケート等により確認す る） ・ アイデンティティの再確認 と諸活動の検証・改善におい ては、学内外のステークホル ダーの意見も踏まえ、ステー クホルダーからの理解を得ら れるよう適切な説明責任を果 たし、良好かつ持続的な信頼 関係を構築している	学長室 キリスト教文化研究所 広報室アーカイブ 他全組織 （法人/他の学園校）	学長 副学長(教学・情 報教育推進) 副学長(経営・研 究推進) 副学長(国際交流) /キリスト教文化 研究所長 /他全組織長
	2	・ 学修者本位の教育の実現に資する教学マネジメ ントの確立と推進（PDCA） ※関連：連番1・5	・ 教学マネジメントを推進するためのチェックシート導入 ※3ポリシーの実質化に向けた検証と改善 ・ 授業評価アンケートの全学的な管理・運用の促進（例：学科間・科目 間・教員間による適切な共有と改善活用/効果的・納得感のある学生への フィードバック等） ・ 実用的なカリキュラムツリー，カリキュラムマップ，履修モデル等の作 成及び学生への活用方法の周知徹底 ・ 学修計画への有用性を向上させるナンバリングの見直し ・ 適正な教学管理 ・ 単位の実質化（科目履修・単位取得）に向けた各種対応 ※CAPのあり方（点検・見直し） ・ 「主要授業科目」の設定（基幹教員制度・関連：連番30） ・ DPを示したシラバス様式の見直し	・ 学生のDP到達度を学生や 大学が把握することが可能で ある状態。 ※卒業時に限らず学修過程 (学期末等)においても到達度 を把握できる	学務部 各学部学科・大学院各研究科 英語教育センター キリスト教文化研究所 インクルーシブ教育研究セン ター (全学共通科目委員会)(諸課程) 地域連携・SDGs推進センター 国際交流センター キャリアサポートセンター 情報教育支援センター 学長室IRセンター	副学長(教学・情 報教育推進) 各学部長 各研究科長 /学務部長 /他教学系組織長

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 (目指す状態)	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
(2) 教育・研究の質の向上（大学：国際交流、社会連携を含む） (2)－1 教育の質の向上	3	・学部(研究科)・学科(専攻)を超えた(横断的)教育プログラムの体系化 ※関連：連番1	社会的要請を踏まえた全学共通教育プログラムの更新 ※学部・学科単位のカリキュラム設定 （既存の学科別実施内容を踏まえたうえで設定） （学部学科共通部分と独自部分の整理） ・卒業後を見据えたキャリア形成に資する教育プログラムの体系化 ・リメディアル教育(各学部学科別課題の把握と対応) ・初年次教育（アカデミックスキル）の検証と改善 （例：フレッシュマンセミナー） ・自校史教育（卒業関連行事・関連：連番1） ・社会連携・貢献の基本について学ぶ機会、及びその学びを生かすPBLの機会の学生への提供 （例：「国連SDGs入門」、PBL授業の実施） ・数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの認定申請と推進 ・外国語教育 ・国際交流関連（単位化の検討）	・全学として保証する教育成果を踏まえて体系化された全学共通教育プログラムによる成果が確認されている状態。	学務部 (全学共通科目委員会) 各学部学科・大学院各研究科 キャリアサポートセンター 情報教育支援センター 地域連携・SDGs推進センター キリスト教文化研究所 インクルーシブ教育研究センター 英語教育センター 国際交流センター 産学連携センター 学長室IRセンター	副学長(教学・情報教育推進) 副学長(国際交流) /学務部長 他教学系組織長
	4	・グローバル人材の育成 ※関連：連番1・3	グローバル人材となるための各種教育や活動の推進 ・英語をはじめとした外国語修得による異文化間コミュニケーション力の向上（外国語教育の充実） ・異文化理解（文化や歴史に関する正しい知識と適切な態度）の促進 ・自国(日本)の言葉や文化・歴史に関する正しい知識の修得 ・留学・海外研修・国際交流プログラムの充実（一部単位化の検討）	・国際交流の機会率(*)の向上 *在学中を通じて国際交流プログラム(国内外を問わず一度でも)参加した学生の割合（後掲：連番15） ・国際交流が実質化しておりグローバル人材の育成・輩出に貢献している状態（後掲：連番15）	国際交流センター 各学部学科(大学院各研究科) 英語教育センター 学務部 キャリアサポートセンター (全学共通科目委員会) (日本語教員養成課程)	副学長(国際交流) 副学長(教学・情報教育推進) /国際交流センター長 /英語教育センター長 /学務部長

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 （目指す状態）	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
	5	・学習の活性化につながる組織的な取組の推進 ※関連：連番2	・FDの推進（教員の教育力の向上/教育改善成果等の共有） ・教育課程の点検・評価、授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組み（FD活動の実質化・活性化/学科・研究科間の教育方法・成果等の共有/学生FDの推進） ・新任教員研修プログラム（FD）の開発・整備・実施体制の構築（関連：連番31） ・外部の視点や学生等からの意見聴取と適切な反映 ・学修ポートフォリオ活用による自律的学修の支援・成長の可視化 ・教育の効果性向上・学習の活性化を目的とした授業形態であるアクティブラーニング/ICT利用の促進（授業へのICT利用/学修状況の見える化と活用の促進）方針の整備・更新	・FD活動をはじめとした組織的な教育改善活動が実質化しており教育力向上と教育改善に十分に寄与している状態。	学務部 (FD等推進委員会/大学院FD推進委員会) 各学部学科 大学院各研究科 英語教育センター 情報教育支援センター キャリアサポートセンター 学長室IRセンター	副学長(教学・情報教育推進) FD等推進委員長 /学務部長 /情報教育支援センター長
	6	・学生の学修や大学が行う教育・研究を支える学術情報基盤の充実 ※関連：連番1・2・17	・附属図書館における学修環境の充実（情報アクセスの充実や学習に集中できるパーソナルスペースの整備） ・図書館リテラシーやレファレンスサービスの維持向上（質を担保する専門人材の配置） ・電子資料の充実と利用促進 ・利用実態の把握と改善（利用者アンケートの実施/授業との連携促進） ・中期的な蔵書管理計画の立案と実行	・新学部の完成年度（2027年度）における図書の充実・整備 ・中期的な計画に基づいた蔵書の構築	附属図書館 情報教育支援センター 各学部学科 大学院研究科 総務部(科研・助成金関連) 学務部	附属図書館長

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 （目指す状態）	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
(2)－2 研究活動の活性化	7	・全学的な研究力向上のための立案と実行 ※研究推進（外部研究費の獲得推進含む）に資する適切・効果的な研究支援(環境/研究費等)の在り方検討・運用 ※関連：連番1・8・9・16・25・26・27	・教員個人、研究所、センター等の研究成果をホームページ等に掲載（関連：連番26・27） ・研究環境の整備（関連：連番17・25） ・各種媒体、公開講座等を通じた、国内外へ積極的に情報発信するための支援（関連：連番16・26・27） ・戦略的な学内研究助成や個人研究費等のあり方検討 ・大学独自の研究発表の場を創出（仮称）NDSUフォーラム等実施（関連：連番1・8・9・26・27）	・研究業績の公表（英語版含む）100% ・教員・大学院生・学生の教育研究成果の発表の場を本学独自・他大学・他機関の連携を図りながら創出している	産学連携センター 総務部(科研・助成金関連) (法人)	副学長(経営・研究推進) /産学連携センター長
	8	・特色ある研究分野（分野横断による学内共同研究等）の強化促進 ※関連：連番1・7・27	・学内研究助成の公募戦略の立案と実行 （例：地域連携・社会貢献に資する研究分野横断による共同研究に資する配分強化。その他、人文系のデータサイエンスや、聖書やキリスト教文化の分野横断的研究など、特徴ある研究分野の推進・強化に資する配分⇒県外の高校生にも「清心でしか学べないことがある」のメッセージ）	・学内共同研究をととして教員の研究意欲・能力が発揮されている状態 ・特色ある研究分野の研究の強化が本学のブランディングにも寄与している状態	産学連携センター 総務部(科研・助成金関連)	副学長(経営・研究推進) /産学連携センター長
	9	・外部研究費獲得の推進 ※関連：連番7・8・25	・学外競争的研究費、共同研究、学外助成等の外部研究費獲得のための戦略立案と実行 （関連：連番7・8・25）	・外部研究費の獲得について現状維持以上を目指し、検討会議等で方針を定めた数値目標に到達	産学連携センター 総務部(科研・助成金関連) 各研究所・センター(研究実施)	副学長(経営・研究推進) /産学連携センター長
	10	・大学院教育の充実 ※研究者養成/キャリアアップの視点 ※関連：連番1・7・23	・大学院進学者増加（研究環境の充実/進路支援の充実） ・修了後を見据えたキャリア形成支援のための各種取組や連携 ・大学院生に対する研究倫理教育等の実施	・大学院の進学率向上を軸とした定員充足率向上 ・大学院生の研究倫理教育の受講率100%	学務部 大学院各研究科 各学部学科 キャリアサポートセンター 総務部(科研・助成金関連) (入試広報部)	副学長(教学・情報教育推進) 副学長(経営・研究推進) /各研究科長 /学務部長
	11	・学術研究活動を支える知の拠点としての貢献 ※関連：連番1・7・12・17・26	・研究活動に必要な資料提供の充実（特殊文庫資料含む） ・リポジトリ掲載論文の拡充 ・（再掲：連番6）中期的な蔵書管理計画の立案と実行 ・各研究所（研究を行うセンターを含む）による研究活動の活性化及び成果の還元・発信	・（再掲：連番6）新学部の完成年度（2027年度）における図書の充実・整備 ・（再掲：連番6）中期的に渡る計画に基づいた蔵書管理ができている状態 ・地域・社会においても貢献できる知の拠点となるための課題対応が進んでいる状態	附属図書館 各学部学科 大学院各研究科 総務部(科研・助成金関連) 他各研究所・センター 施設企画管理部	副学長(経営・研究推進) 附属図書館長 /産学連携センター長 /地域連携・SDGs推進センター長

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 （目指す状態）	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
(2)－3 社会連携・社会 貢献活動の推進	12	・教育資源を還元する社会連携・社会貢献の学内方針に沿った計画の立案と実行 ※経営方針にも沿った形で実施計画の立案と実行 ※関連：連番1・13・26	・社会連携・社会貢献全般に係る実行計画の立案と実行（進捗管理） （連番13～16に係る上位計画） ※リカレント教育の視点 ※近隣地域（キャンパス近隣地区）との連携推進 ・（再掲：連番7）大学独自の研究発表の場を創出（仮称）NDSUフォーラム等実施（関連：連番1・8・9・26・27）	・社会連携・社会貢献全般に係る実行計画が立案され進捗管理のもと成果を出している状態	地域連携・SDGs推進センター 産学連携センター 生涯学習センター 国際交流センター 他各研究所・センター	副学長(国際交流) /地域連携・SDGs 推進センター長 /産学連携センター長
	13	・学外組織との共創的連携の拡大・進展 ※関連：連番1・3・12・20・26 （参考）共創：共創とは、企業があらゆる利害関係者（ステークホルダー）と協働しながら事業を行い、新たな価値を創造することを意味する言葉。英語では「co-creation」	・企業・自治体・各種団体等との連携・協働 ・中学生以下を対象とした企画・実施 ・高校現場の需要を踏まえた高大接続企画（関連：連番20） ※学生募集直結ではなく大学の知的財産・教育資源の還元の一つのあり方として企画・推進 ・企業・大学（学校）・自治体・各種団体等との連携・協働を推進し、本学がHUBとなり、新たな価値を創造する	・企業・大学(学校)・自治体・各種団体等との連携・協働を推進し、新たな価値を創造している	地域連携・SDGs推進センター 産学連携センター 生涯学習センター 国際交流センター 入試広報部 他各研究所・センター	副学長(国際交流) 副学長(教学・情報教育推進) /地域連携・SDGs 推進センター長 /産学連携センター長
	14	・社会貢献・地域連携機会の充実と参加学生への支援充実(体制整備)による正課外教育の推進 ※関連：連番1・3・12・23・24・26	・学生のキャリア形成に資する正課外教育の推進につながる各種社会貢献・地域連携活動の推進（関連：連番3・23） ・包括連携協定先との活動強化 ・他大学との連携活動 ・大学発ベンチャー等 ・清心コラボの定義・あり方の検討・明確化 ・学生の学外活動（清心コラボやボランティア活動）において、安全に且つ参加しやすい環境を整備する ・再掲（連番3内のPBL関係）社会連携・貢献の基本について学ぶ機会、及びその学びを生かすPBLの機会の学生への提供（例：「国連SDGs入門」、PBL授業）の実施	・（再掲：連番7）教員・大学院生・学生の教育研究成果の発表の場を本学独自・他大学・他機関の連携を図りながら創出している ・上記の場がHUBとなり、学内的には教員・学生の社会連携活動が活性化し、さらなる研究成果を生むとともに、学生のキャリア形成の向上にもつながり、卒業後に地域社会に貢献する人材育成に寄与する状態 ・学外的には地域社会にイノベーション起こすことで地域社会の活性化に貢献できている	地域連携・SDGs推進センター 産学連携センター 生涯学習センター 国際交流センター 各学部学科 学務部(学生)	副学長(国際交流) 副学長(教学・情報教育推進) /地域連携・SDGs 推進センター長

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 (目指す状態)	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
	15	・国際交流の推進 ※関連：連番1・12・17・26	・本学に対するグローバルイメージの地域浸透（関連：連番1・17・27） ※領事機関等との連携強化/キャンパス環境のグローバル化の推進 ・国際交流の実質化及び促進 ※国際交流活動活性化（学生/教員）/グローバル人材の育成に資する各種取組（関連：連番4） ・海外からの留学生等の受入促進 ※必要な体制整備	・本学に対するグローバルイメージが十分に地域に浸透している状態（関連：連番1・27） ・（再掲：連番4）国際交流の機会率(*)の向上 *在学中を通じて国際交流プログラム(国内外を問わず一度でも)参加した学生の割合 ・（再掲：連番4）国際交流が実質化しておりグローバル人材の育成・輩出に貢献している状態	国際交流センター 地域連携・SDGs推進センター キリスト教文化研究所 英語教育センター 施設企画管理部 学務部 (学長室)	副学長(国際交流) /国際交流センター長
	16	・地域社会に貢献する各種講座等の推進と同窓会との連携強化 ※関連：連番1・12・26	・生涯学習（産学官連携公開講座）の充実 ※科目等履修生・聴講生制度 ・卒業生支援 ・卒業生の活用（広報等） ※同窓会戦略との連携強化の企画立案・実行（リカレント教育・リスキリング・キャンパス利用・生涯学習・キャリア支援・プロボノ・キャリア教育講師等）	・生涯学習センターが地域への本学教育資源の還元の間となり、地域のリカレント教育、リスキリングに貢献する。卒業生支援にも貢献。	地域連携・SDGs推進センター 生涯学習センター 学長室 総務部 学務部 キャリアサポートセンター	副学長(国際交流) 副学長(経営・研究推進) 副学長(教学・情報教育推進) /地域連携・SDGs推進センター長

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 （目指す状態）	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
(3) 教育・研究環境 の充実	17	・学修者本位の教育を実現するキャンパスマスタープランの策定と運用 ※関連：連番1・6・11・15・21・24・25・27・32	・財務状況を加味しながら資産価値の維持・向上を図る中長期的なプランの立案と運用 施設整備の観点 1.長期的観点に立った施設の質の向上 歴史、伝統を踏まえ、次世代に継承 2.高度化、多様化する教育研究に対応できる施設の整備 異なる知識や立場、価値観を持つ人が集い交流し、新たな発想のもとイノベーションを創出するための場としての機能を強化 3.人間性・文化性豊かな環境の創造 学修意欲や快適性の向上に資するキャンパス整備 4.広く社会に開かれたキャンパスの整備 学外施設を含む今後のあり方の協議結果を踏まえた整備	・中長期的なキャンパスマスタープランのもと、学修意欲や快適性の向上をはじめ本学のアイデンティティを継承していくためのキャンパス環境が維持向上している状態。	施設企画管理部 学務部(教務/学生) 附属図書館 情報教育支援センター 総務部(財務) 学長室 (学長室IRセンター) (法人)	副学長(経営・研究推進)
	18	・学生募集戦略に基づく入試の実践（PDCA） ※関連：連番2	・APに基づいた入試の実施 ・エンrollmentマネジメントの視点に基づいた入学後の学修状況・成果等を加味した学生募集戦略の立案（検証と改善：PDCA）	・安定的な定員充足 ・入学後の学修状況・教育成果も加味した学生募集戦略に基づく入試の実施	入試広報部 各学部学科 (学務部) (キャリアサポートセンター) (学長室IRセンター)	副学長(教学・情報教育推進) 副学長(経営・研究推進)
	19	・効果的な学生募集活動の実践（PDCA）とアドミッション・オフィス機能の整備・推進 ※教育需要の把握・情報収集⇒教育資源の還元・提供⇒志願者開拓/個々への進路選択支援 ※関連：連番1・18・20・26・27	・学生募集戦略に基づく学生募集広報の戦略的プランニングと実践（PDCA） ※エリア別/学科別広報戦略の強化 ※関係組織との役割整理と協働/学内協力体制の構築 ・アドミッション・オフィス機能の整備と推進 ※体制・役割等の各種要件整備 ※大学アドミッション専門人材の養成	・学生募集戦略の実践 (PDCA)成果が学内で共有されている	入試広報部 各学部学科 広報室 (学長室) (学長室IRセンター)	副学長(教学) 副学長(経営・研究推進)
(4) 入学生の安定的な確保	20	・高大接続事業計画の立案と実行 ※関連：連番13・19・26	・高校現場の需要を踏まえた高大接続事業計画の立案・実行 ※入学後、卒業後を見据えた高大接続プログラムの開発と実践（PDCA） (アドミッション・オフィス業務の一環) ※関係組織との役割整理と協働	・高大接続プログラムを通じて高校生の学習意欲やキャリア形成支援に活かし、本学の教育資源の価値を浸透させる	入試広報部 (高大接続企画・運営委員会) 各学部学科・大学院各研究科 地域連携・SDGs推進センター 生涯学習センター 他各研究所・センター 学務部	副学長(教学・情報教育推進) 副学長(経営・研究推進)

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 (目指す状態)	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
(5) 学生支援の充実	21	・学生に寄り添った学生支援の充実 ※主に学生生活支援 ※関連：連番17	・効果的な学生支援と適切な学内連携・情報共有 ・学習等に困難を抱える学生への支援 ・心身の健康支援体制の整備 ・多様な学生への支援と体制強化 ・アメニティ環境の充実・整備 ・対応職員的能力向上（研修の実施等）	・学生の需要を踏まえたうえで効果的な支援が行き届いている状態	学務部(学生) インクルーシブ教育研究センター 保健センター 各学部学科（アドバイザー） 入試広報部 施設企画管理部	副学長(教学・情報教育推進) /学務部長 /インクルーシブ教育研究センター長
	22	・修学支援制度の整備 ※主に経済支援を指す 出典：文科省「修学援助制度の概要」 ※関連：連番25	・本学独自の奨学金の見直しによる効果的な就学支援 ※県外入学生(自宅外通学者)に対する支援 ※学生募集への影響も加味した戦略的支援 ※国際交流等に係る支援のあり方 ※表彰制度や優秀学生育成奨学金の成果検証	・学生ができるだけ学修に集中できる、または活動の効果的な支援につながるような就学支援制度が整備されている	学務部(学生) 総務部(財務) 入試広報部 (国際交流センター) (同窓会)	副学長(教学・情報教育推進) 副学長(経営・研究推進) /学務部長
	23	・キャリア形成・就職支援の充実 ※関連：連番3・14	・キャリア形成機会の創出・手法（インターンシップ等）の開発・推進（関連：連番3・14） ・効果的な時機にキャリア支援・就職支援を行うためのキャリアサポートセンターによる学生への接触機会の創出 ・学内教育組織（学部学科/教職課程センター）との学生の就職活動状況等の情報共有の促進 ・フォローの必要な学生に対する適切な支援（学内外機関との連携）	・就職をゴールとせず、その後も含めたキャリア全体を意識した大学生生活（学修/その他）を送れるような環境が整い、それに学生が成果を感じている状態	キャリアサポートセンター 各学部学科 地域連携・SDGs推進センター 産学連携センター 学務部（教務/学生） (全学共通科目委員会) 教職課程センター インクルーシブ教育研究センター 国際交流センター (学長室IRセンター)	副学長(教学・情報教育推進)
	24	・課外活動の活性化に向けた計画立案と実行 ※関連：連番14・17・23	・部・サークルの活性化 ・各種学生主体の活動の支援（学生の主体性を踏まえた支援のあり方について協議・方針の共有） ・学生表彰制度の検討（関連：連番22） ・ボランティア活動（有償含む）の参加機会創出支援 ※グローバル視点（地域/国際交流関連） ・学生が学外活動（清心コラボやボランティア活動）に安全して参加できる環境・ルール整備（関連：連番14）	・学生が主体性を発揮しながら、キャリア形成や充実した学生生活に資する課外活動に意欲的に参加している	学務部(学生) 地域連携・SDGs推進センター 生涯学習センター 教職課程センター 国際交流センター 各学部学科 他各研究所・センター	副学長(教学・情報教育推進) /学務部長

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 (目指す状態)	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
(6) 財務状況の改善・財務基盤の強化	25	・安定した財政基盤を維持するための財政計画立案・実行 ※関連：連番17・32	- 外部資金（研究助成・寄附金・補助金等）獲得戦略（関連：連番7） - 予算管理の実質化 ※事業目的・効果検証等(確度の高い見込み含む)踏まえた実質的な予算査定 - 学部学科予算の適正化（教育研究費/個人研究費等） - 経理・会計に加え財務企画を担う専門人材の養成 - 予算説明会・決算説明会の実施 - 中長期財政計画の策定と実行	・中長期財政計画が策定されており、それに基づいた持続可能な大学経営・運営がなされている状態	総務部(財務/総務) 学長室 (施設企画管理部) (同窓会) (法人)	副学長(経営・研究推進)
(7) ステークホルダーとのコミュニケーションの促進等による信頼関係の構築	26	・ステークホルダーとの信頼関係構築・維持と価値理解の浸透 ※学内外に対して効果的な情報発信及び必要な説明責任を果たし、“すべてのステークホルダーに対して全方位的に信頼関係を構築する” ※関連：連番1・7・12～16・19・20	- コミュニケーション(学内外連携)の促進に資する各種取組 ※ステークホルダーごとの広報戦略に基づく取組 ※HP・SNSの戦略的な発信充実（LPとの連動等）、アクセス数等の目標設定と検証・改善、英語ページの充実 - 情報提供・共有のスピード化 - 大学情報の積極的な公開（Webサイト、広報誌等） - 特色ある教育研究活動等について戦略的な広報活動の実施（学内関係組織と協働） - 高校1・2年生を対象とした本学の志望度を上げる学生募集活動の展開（学内関係組織と協働） - 学生との協働による企画の充実	・本学のリベラル・アーツ大学としての学びを見える化し、キリスト教精神に基づいた教育による真の自由人の育成という本学のユニークな教育が、実質的な教育成果とともにステークホルダーに信頼感をもって広く認知されている。 ・シスター来日100年を経て、次の100年に向けて、建学の精神「心を清くし 愛の人であれ」を基盤にしたブランドイメージが広く発信されている。	広報室 入試広報部 各学部学科・大学院各研究科 キャリアサポートセンター 他各研究所・センター 学務部 学長室 他全組織 (法人)	副学長(経営・研究推進) 副学長(教学・情報教育推進) 副学長(国際交流) /広報室長 /他全組織長
	27	・戦略的なブランドイメージの発信 ※関連：連番1・19	・ブランディング戦略に基づく一貫した広報活動（関連：連番1・19） ※本学のリベラル・アーツ大学としての学びの見える化 ※柔軟かつ躍動感のある学生像を見せる ※ブランドの根幹をなすメッセージ情報の継続的（一貫性を保った）発信 ※県外を視野にいたったブランドの社会的認知度の向上	・柔軟かつ躍動感のある学生像を見せることで、総合的な人間力を形成する場があるということが広く認知されている。 ・シスター来日100年を経て、次の100年に向けて、建学の精神「心を清くし 愛の人であれ」を基盤にしたブランドイメージが広く発信されている。	広報室 入試広報部 各研究所・センター 各学部学科・大学院各研究科 学長室 他全組織 (法人)	副学長(経営・研究推進) 副学長(教学・情報教育推進) 副学長(国際交流) /広報室長 /他全組織長

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 （目指す状態）	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
(8) 建学の精神、教育理念の実現に寄与する大学マネジメント力の強化	28	・大学の理念・目的の実現のための将来を見据えた中期計画その他の諸施策の策定・推進 ※関連：連番1・2	・大学の理念・目的の実現、教育研究活動の充実・向上につながる将来を見据えた中期計画の策定と運用 ・内部質保証体制・システムの実質化（システムの更新を含む）によるPDCAサイクルの確立 ・各組織の活動の業務評価（PDCA）方法の確立	・中期計画が大学運営における諸活動（教学・経営両面）の基盤となっており、本学の建学の精神やビジョンの理解・浸透に大きく寄与している状態 ※成果等を定性・定量評価で確認できている ・次期（第3期:2031年度～）を見据え、社会の変化等に柔軟に対応しながら、中期計画等の諸施策に恒常的・継続的に取り組む体制を整えている	学長室 総務部(財務/総務) (学長室IRセンター) (法人)	副学長(経営・研究推進) 副学長(教学・情報教育推進) 副学長(国際交流) /全組織長
	29	・社会的要請に応えるための教育組織や業務運営組織の不断の見直し	・新学部AC対応 ・事務組織の構築・見直し ・社会と学生の需要に応える教育組織の見直し検討 ※大学運営にかかる組織（附属機関・センター等含む）のあり方等の検証（機能評価）・改善（統廃合・再編含む）（関連：連番1・28）	・本学が社会から支持され続けるため、教育等に係る諸活動が合理的・効果的・組織的に行える教育体制・業務運営体制が整っている状態	学長室 総務部(総務/財務) (業務改革会議) (学長室IRセンター) (法人)	副学長(経営・研究推進) 副学長(教学・情報教育推進) 副学長(国際交流)
	30	・組織力向上のための業務改革・改善の推進 ※関連：連番1・7	・各種委員会等会議体の見直し ・各種規程の見直し ・教員と職員の役割明確化と協働性向上 ※職員の政策立案による大学運営の活性化・促進 ・附属機関・センター等の機能評価・見直し（統廃合・再編含む）（関連：連番1） ・業務DX(業務の効率化のためのシステム構築等)の推進 ・各種マニュアル整備（研究費等執行マニュアル含む）（関連：7）	・教職員個々の努力・成長や成果が組織全体の成果につながられている状態 ・組織力強化の取組の成果が確認できる状態	学長室 (業務改革会議) 総務部(総務/財務) 情報教育支援センター (学長室IRセンター) (法人)	副学長(経営・研究推進) 副学長(教学・情報教育推進) 副学長(国際交流) /全組織長

大項目 (学園共通目標)	中期 連番	中項目＝中期計画の実行項目（全32項目）	小項目＝具体的な取組事項（※課題/取組例示を含む） ：期間中・単年度計画の取組候補	到達目標 (目指す状態)	担当組織（関係組織） ※筆頭：事務主管部署	実施責任者/補佐
	31	・教職員の育成、パフォーマンス(専門性)向上のための 仕組・環境作り ※関連：連番1・5・7・12・25	・経営人材の養成（関連：連番25） ・職員人事マネジメント制度の導入（人材育成・適正配置等/将来の処遇反映） ・人事専門部門の設置（専門人材の養成） ・事務系組織との人事ヒアリングの実質化 ・各部署内での職員キャリア面談の実施 ・本学におけるキャリアパス(モデル)の作成・提示 ・事務職員の職位見直し（併:権限規程及び処遇の見直し） ・職階にあわせた研修参加プログラムの構築 ・教職員の資格取得奨励（職員の各種専門資格や学位取得等） ・新任教員FDの構築（関連：連番5） ・教員の業績評価のあり方検討（関連：連番7）	・（再掲：連番30）教職員個々の努力・成長や成果が組織全体の成果につながっている状態 ・教職員個々の成果が組織成果も踏まえ適切に評価され、さらなる成長・資質向上につながる仕組みが構築されている状態	総務部(総務/財務) (SD等推進委員会) 学長室 (FD等推進委員会) 学務部 (学長室IRセンター) 他全組織 (法人)	副学長(経営・研究推進) 副学長(教学・情報教育推進) 副学長(国際交流) /全組織長
	32	・リスクマネジメント及びコンプライアンスの推進 ※関連：連番17・25・30	・危機管理・危機対応体制の確立、必要なガイドライン等の整備 ※法務対応等、災害等以外にもあらゆる観点での危機管理 ・諸活動に係る意思決定・業務執行の適正化（検証と改善） ※法人と協働した監査機能の強化等 ・危機管理広報 ※コンプライアンス遵守に加え、ステークホルダーとの信頼構築を意識	・これからの社会に必要なリスクが想定され、それらに対する体制やガイドライン等が確立・整備されており、必要に応じた更新も図られている状態	総務部 施設企画管理部 学長室 情報教育支援センター 広報室 (法人)	学長 副学長(経営・研究推進) 副学長(教学・情報教育推進) 副学長(国際交流) /全組織長